市議会うんなん

No.22
2010.7.20

園庭へ芝生の苗植えをする三刀屋幼稚園児

平成22年 6月定例会

- 6月定例会報告、請願・陳情審査結果 ・・・・ 2～4
- 委員会報告
  総務常任委員会・教育民生常任委員会・産業建設常任委員会・予算審査特別委員会・ダム対策特別委員会 5～7
- ここが聞きたい 一般質問 16名の議員が登壇 ・・・・ 8～15
- お知らせ ・・・・ 16

平成22年 6月定例会

市民生活へのきめ細かな施策

議案等44件を可決

雲南市議会6月定例会は6月11日から25日までの15日間の会期で開催されました。

主要施策

市民の強い要望のもと、各議員が一般質問等を通じて実現を求めてきた施策などが提案され可決しました。

1、住宅リフォーム助成事業

経済波及効果が高いことから昨年に引き続き実施を求めてきました。経済対策として平成22年度に限り実施することとなりました。

2、子宮頸がんワクチンとヒブワクチンの接種助成事業

予防効果が高く実施を求めてきました。

3、防犯灯緊急設置事業

島根県立大学生の遺棄事件を受け、防犯灯の設置要望が高まっています。

自治会から出された要望箇所数は416件（184団体）で、設置予定は数100基を超えています。議員からは、設置数の上乗せを求める声が出ました。消費電力が少なく寿命が長いLED防犯灯を採用することとされています。

4、公立雲南総合病院の市立化

来年3月に公立雲南総合病院組合を解散し「雲南市立病院」へ移行の予定です。6月議会では、移行のため規約の一部改正を行いました。今後は、地域医療のあり方の議論を深め、市立病院の診療体制（診療科数等）など検討を進めます。

4月にオープンし、好評な
オーベルジュうんなん

5、農地有効利用支援整備事業

新政権下の事業仕分けにより廃止された簡易な農業基盤整備（農業用水の確保等）の補助事業を県を中心に復活したものです。国の助成がなくなり、受益者負担が15％から25％と10％増加しました。

6月定例会補正予算の主なもの

一般会計

（単位：円）

内　　容	項　目	審議分科会
・雲南の「食と神話」の情報を発信。また「食の幸」を生かした交流をはかり定住化を推進する事業	250万	総務分科会
・県の「防犯環境づくり支援事業」を活用し、住民要望をもとに防犯灯を設置	500万	
・認知症グループホーム開設事業者に対し、施設開設までの準備経費を助成	540万	教育民生分科会
・子宮頸がん、ヒブワクチンの接種費用を助成。医療機関に委託し実施（子宮頸がん：10,000円／１回、ヒブワクチン：3,000円／１回を助成）	445万	
・子宮頸がん検診時にHPV検査を受けられた場合の費用を助成（3,200円／人）	128万	
・大東西小学校、西幼稚園、掛合中学校施設のアスベスト対策	2,390万	
・三刀屋幼稚園園庭芝生化事業	283万	
・木質バイオマスや有機系バイオマスエネルギーの導入に関する調査事業費	449万	産業建設分科会
・集落営農組織の設立や農業法人の経営の多角化に対する助成	300万	
・口蹄疫対策として消毒薬の購入費	68万	
・簡易な農業基盤の整備を行うために新たに創設された県の単独補助事業	4,000万	
・人家の裏山崩落に対する復旧対策事業費（市内　３ヶ所）	713万	
・「雲南市らしい食」のＰＲ事業と農商工連携推進モデル事業の増額	126万	
・新庄飯田線（第３工区）及び上久野大東線にかかる道路建設事業費	1,300万	
・住宅リフォーム助成事業	6,000万	

特別会計・公営企業会計

（単位：円）

会　計　名	内　　容	金　額
国民健康保険事業（事業勘定）	主に人件費減	△294万
国民健康保険事業（直営施設事業勘定）	主に人件費減	△122万
簡易水道事業	主に人件費増	117万
生活排水処理事業	主に人件費増	209万
ダム対策事業	主に人件費増・森づくり事業・団体への補助金	1,012万
水道事業	主に人件費の減	△1,066万
工業用水道事業	主に人件費の減	△18万

雲南の食を発信
「ふるさと、ごはん。」と
「うちそばレシピ」

議員発議

松江地方法務局雲南支局の廃止に反対し、存続を求める意見書

国の行財政改革の一環として、地方法務局の見直しが進められる中、雲南支局も廃止の方針が示されました。しかし、雲南圏域は約1，165㎢という広大な面積であり、統合先の出雲支局までの所要時間が1時間を超える地域が広範囲にわたり、利便性が大幅に低下し、地域活動や地域経済に大きな影響を与えると考えられること、また人権擁護事務においても身近な相談がしやすい体制が必要なことから、存続を強く求める意見書を採択しました。

提出先　内閣総理大臣ほか

ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチンの定期接種化を求める意見書

6月定例会で、市の独自助成としてワクチン接種費用の一部助成が行われる事となりました。これらのワクチンは重要性・有効性が認められながらも、任意接種のため公費負担がなく、高額の負担を強いられることとなっています。また、自治体により予防接種事業に格差が生じることも好ましくないことです。予防接種法の改正を行い、国費による助成を求める意見書を採択しました。

提出先　内閣総理大臣ほか

６月定例会に提出された主な議案と結果

【条例】	採決結果	採決状況
雲南市税条例一部改正の専決処分※１の承認	承認	全会一致
雲南市国民健康保険条例一部改正の専決処分の承認	承認	全会一致
市職員の勤務時間、休暇に関する条例の一部改正	可決	全会一致
市職員の育児休業等に関する条例の一部改正	可決	全会一致
交流センターの名称変更による条例改正「三日市交流センター」⇒「三新塔交流センター」	可決	全会一致
雲南市都市計画審議会の構成人数変更による条例改正	可決	全会一致
公立雲南総合病院組合解散後の事務の引継ぎや決算の審査・認定に関する事項を組合規約に加える為の条例整備	可決	全会一致

【承認・報告・一般事案・諮問事項】	採決結果	採決状況
人権擁護委員候補者の推薦による諮問（３件）	適任	全会一致
畑鵯辺地外16辺地に係る総合整備計画	可決	全会一致
大東町大木原土地区画整理事業に伴う新規路線の市道認定	可決	全会一致
大東町大木原土地区画整理事業に伴う市道かわはら公園線の起点の変更等	可決	全会一致
放課後児童クラブ使用料の滞納分を一部債権放棄した報告	「報告」については賛否を問いません。	
住宅使用料の滞納分を一部債権放棄した報告		
学校給食費の滞納分を一部債権放棄した報告		
幼稚園保育料の滞納分を一部債権放棄した報告		
簡易水道料金の滞納分を一部債権放棄した報告		

※１ 専決処分 …… 本来議会で決定する事柄を、議会を召集する時間がないなど、特定の場合に限り市長が議会に代わって処理すること。
※２ 繰越明許費 … 当年度に行うはずだった事業を議会議決を経て、翌年度に繰り越して行うための費用

【平成21年度予算関連】		採決結果	採決状況
専決処分の承認	一般会計補正予算	承認	全会一致
	国民健康保険事業特別会計補正予算	承認	全会一致
	老人保健特別会計補正予算	承認	全会一致
	後期高齢者医療事業特別会計補正予算	承認	全会一致
	農業労働災害共済事業特別会計補正予算	承認	全会一致
	簡易水道事業特別会計補正予算	承認	全会一致
	生活排水処理事業特別会計補正予算	承認	全会一致
	土地区画整理事業特別会計補正予算	承認	全会一致
	ダム対策事業特別会計補正予算	承認	全会一致
繰越計算書の報告	一般会計繰越明許費※２	「報告」については賛否を問いません。	
	簡易水道事業特別会計繰越明許費		
	生活排水処理事業特別会計繰越明許費		
	土地区画整理事業特別会計繰越明許費		
	ダム対策事業特別会計繰越明許費		
水道事業会計予算の繰越報告			

【平成22年度予算関連】	採決結果	採決状況
老人保健特別会計補正予算の専決処分の承認	承認	全会一致
一般会計補正予算	可決	全会一致
一般会計補正予算（追加提案分）	可決	全会一致
国民健康保険事業特別会計補正予算	可決	全会一致
簡易水道事業特別会計補正予算	可決	全会一致
生活排水処理事業特別会計補正予算	可決	全会一致
ダム対策事業特別会計補正予算	可決	全会一致
水道事業会計補正予算	可決	全会一致
工業用水道事業会計補正予算	可決	全会一致

請願・陳情 審査結果

６月定例会に、陳情５件が提出されました。審議の結果は次のとおりです。

「継続審査」

●改正国籍法の厳格な制度運用を求める陳情
日本の子供の未来を・守る会
妹尾順子

●永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する陳情
日本の子供の未来を・守る会
妹尾順子

●選択的夫婦別姓制度の法制化に反対する陳情
日本の子供の未来を・守る会
妹尾順子

●人権擁護法の成立に反対する陳情
日本の子供の未来を・守る会
妹尾順子

●子ども手当の廃止を求める意見書の提出に関する陳情
日本の子供の未来を・守る会
妹尾順子

６月定例会以前に提出され継続審査となっていたものの結果は次のとおりです。

「採択」

●市道新市中央線改良工事継続に関する陳情書
西日登振興会
会長 石田 進 他４名

「継続審査」

●「選択的夫婦別姓を認める民法の一部改正」に反対を求める意見書提出に関する請願
吾郷幸男

委員会報告

総務常任委員会

委員長　深田徳夫

〈審議の総括〉

雲南市総合計画の後期計画と財政運営について、市長のビジョン、地域計画の扱い、雲南病院・新庁舎の建設計画、地域主権の自治体のあり方、これらに伴う財政の考え方等の総括質疑をおこない、22年度一般会計補正予算案などを審議、その後「松江地方法務局雲南支局の統合に反対し、存続を求める意見書」の提出を全会一致で決しました。

〈条例関係〉

市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例、畑鵯辺地外16辺地に係る総合整備計画などの4議案を慎重審議し、可決すべきものと決しました。

〈予算関係〉

一般会計補正予算所管分は、職員の人事異動による人件費の予算調整及び職員の給料減額7，506万円、防犯灯緊急設置事業500万円、食の幸交流促進事業250万円等でした。またダム対策費としては、みーもの森作り事業等1，012万円が補正されました。なお、防犯灯緊急設置事業は多くの要望が出されていることから更なる予算を確保すべきとの意見を付して可決すべきものと決しました。

1市2町で存続を求めている法務局雲南支局

教育民生常任委員会

委員長　細田実

〈審議の総括〉

総括質疑では、平成21年度介護給付費財政調整交付金算定に誤りがあり、交付金が低く算定された原因について質疑。市長からは陳謝とチェック体制の強化、被保険者に新たな負担を求めないよう取り組む考えが示されました。

さらに、幼稚園と保育園の一元化の検討状況、B型・C型肝炎患者への支援、不登校対策について議論しました。

〈条例関係〉

公立雲南総合病院を来年4月から雲南市立病院へ移行するため、病院規約を一部変更する規約を可決すべきものと決しました。

〈予算関係〉

認知症グループホーム開設者に対し、開設までの人件費等助成540万円。市の単独事業として、新規に子宮頸がん、ヒブワクチンの接種費用助成445万円、三刀屋幼稚園の園庭を芝生化するための事業費283万円などを可決すべきものと決しました。

子ども・保護者・地域の方が一緒になって園庭の芝生化に取り組む三刀屋幼稚園

産業建設常任委員会

委員長　堀江治之

〈審議の総括〉

総括質疑では住宅リフォーム助成について、前回実績を踏まえて出来るだけ多くの方が利用できるようにと提言。また、高速道路の無料化による市内のストロー現象による衰退を防ぐ対策についての考え方を問い、まめなカー市について、その実績と、今後の方向性についての質疑が行われました。

〈条例関係〉

雲南市都市計画審議会条例の一部を改正する条例は、議会代表委員を2名減らし、市民代表委員を2名増やすもので、可決すべきものと決しました。

〈予算関係〉

一般会計、特別会計のほとんどが、4月の人事異動等に伴う人件費の予算調整でありますがその他主な補正は、農地有効利用支援整備事業4，000万円、都市計画道路建設事業1，300万円、住宅リフォーム補助事業6，000万円増額等の予算が提案され可決すべきものと決しました。

〈その他事項〉

市道の路線認定では、大東町の市道「上田町線」の新規認定。

市道の路線変更では、大東町の「かわはら公園線」、三刀屋町の「軍谷大田原線」の終点位置の変更が提案され、可決すべきものと決しました。

新たに市道認定を受けた「上田町線」（大東町）

予算審査特別委員会

委員長　小林眞二

◆主な審議内容は、防犯灯緊急設置事業について、100基設置予定で500万円が計上されているが、6月10日現在で416件の要望申請があるが、安心安全の確保上から更に予算の増額を求める意見を付して報告がありました。

不登校対策事業の200万円について理解はするが、学校以外の支援施設への予算を、その重要性から今後、増額して対処すべきとの意見に対し、副市長からは活動実績を見ながら検討したいとの答弁がありました。

農地有効利用支援事業について、昨年取りまとめた53ヵ所の取扱いと事業採択要件の確認やジャズフェスティバル補助金の予算計上のあり方、橋梁点検事業に係わる雇用の方法についての質疑があったとの報告がありました。

◆結審では各分科会報告に対する質疑はなく、採決の結果、8議案すべて全会一致で可決すべきものと決しました。

8月28日に加茂球場で雲南ジャズフェスティバルが開催されます

ダム対策特別委員会

委員長　**藤原政文**

昭和32年から始まった尾原ダム事業は、今年度、ダム本体完成という一つの節目の年を迎えました。

＊ダム本体工事

33ヵ月続いたコンクリート打設は、さる6月11日、最終打設を終えました。

最終打設

翌12日には、ダム事業のため移転された方々、地元尾原地区のみなさんと共に、当委員会委員も打設の終わった提頂の見学会に参加しました。

堤頂から水没地を見た参加者からは「感慨深い」との声が多く聞こえました。

堤頂から北原方面を望む

ダム本体工事は、今後、機械設備設置などの工事を行い、10月中旬ころから湛水（水を貯める）試験を行い、来年3月末に完成の予定です。

堤頂見学会

＊周辺地域整備

現在、島根県によるボートコース、サイクリングコース整備、また、市との共同で行う情報発信・地元食材提供施設「道の駅」整備が進められています。

また、広大な面積の残土処理場の活用について、農地、ホースセラピーを中心に検討が進められています。

また、周辺地域の活性化を図るため本年2月、島根大学作野准教授を会長に「地域づくり推進連絡協議会」が組織され関係者が連携し活性化に向け活動が展開されることになりました。

当委員会では、これらを含め活性化策について6月30日益田市美都町の視察を行うなど調査研究を重ねています。

一方、国から示された「河川整備計画」案に対し、島根県知事より市に対し照会があり、委員会では、「これまでの長く、重い歴史をふまえ、早急に大橋川改修を行うよう県に対し申し入れるべき」との意見を全会一致で確認しました。

（写真提供　西村昇氏）

完成予想図

ここが聞きたい 一般質問

一般質問のページは質問者本人の原稿をもとに広報委員会で編集しました。また質問項目すべてを載せているものではありません。

細木和幸

精神科病棟の閉鎖は理解できない

問い いま、うつ病などの精神疾患は、がんや心臓疾患と並ぶ3大疾患であり、国民病だと指摘されている。来年4月、雲南市立病院移行時に、精神科病棟を閉鎖するという方針は理解できない。

市長 精神科病棟の一時的閉鎖の3年間、常勤医・看護師確保に努力したが、十分にできず、完全閉鎖をせざるを得ないと判断した。県や近隣病院と連携を保った上で対応する。

問い **市道改良の進捗状況があまりにも見えてこない。**

建設部長 22年度公共事業予算は対前年比18%減の予算である。今後は有利な交付金、起債を充当しながら確実に進めていきたい。

問い **高齢運転者が安全上、運転免許証を返納した後の支援策について、タクシー補助券のような支援策は考えられないか。**

総務部長 免許証返納後の移動手段確保が極めて重要だが、返納高齢者のみにかかわらず、公共交通サービス総体の中で検討していきたい。

山崎英志

新築住宅助成制度を創設すべきだ

問い 景気の低迷等により、平成21年度の新築住宅着工戸数は、全国で45年前の水準まで落ち込んでおり、島根県及び雲南市においても急激に減少している。

また、雲南市の人口も合併して5年半で約2，600人も減少し、早急なる人口減少対策が必要である。

平成23年度から一戸当たり100万円、対象戸数100戸、予算総額1億円の「新築住宅に対する助成制度」を創設し、雲南市内の住宅需要喚起による経済活性化（経済波及効果見込み約40億円）を図るとともに、人口減少に歯止めをかける定住対策として実施すべきと考えるが。

市長 建設的なご提言を頂いた。

新築住宅建設に対する助成、そのことにより裾野の広い住宅産業の経済波及効果は期待できると思う。

今後どういった方向であれば住宅需要喚起が実現できるのか、しっかり、じっくり考え、決断するため今しばらく時間をかけて検討したいので、ご理解をいただきたい。

雲南市の人口の推移

	世帯数（戸）	人口（人）
H16.10.31〈合併時〉	13,467	46,131
H22.4.30	13,667	43,520
増減数	＋200	▲ 2,611
増減率	＋1.5%	▲ 5.7%

新築住宅着工戸数の推移

〈単位：戸〉

	全国	島根県	雲南市
平成19年度	1,035,598	3,583	104
平成20年度	1,039,180（＋0.3%）	3,232（▲9.8%）	158（＋51.9%）
平成21年度	775,277（▲25.4%）	2,503（▲22.6%）	77（▲51.3%）
過去最高戸数	約1,800,000〈昭和47年度〉	6,951〈平成8年度〉	不明

※ 括弧内は、前年増減比率及び年度

藤原政文

地方分権、地域主権とは

問い 市長が考える地方分権、地域主権の姿は。

市長 地域のことは地域で決めることが求められる。

予算編成、行政執行権が確実に行われる人材づくり、受け皿づくりを強くすること、自らを律する力が必要になる。市民と行政の協働のまちづくりを進め対応しなければならない。

問い 地方分権社会における行政の役割は。

市長 行政評価制度をしっかり進め人材育成、組織機構の強化が必要になる。

問い 市民に求めるものは。

市長 まちづくり基本条例では、市民と行政の協働のまちづくりをうたっている。市民、行政、お互いに知恵と工夫を凝らして、しっかりと役割を果たさなければならない。

問い 地方分権で教育は、どうなる。

教育長 教育一括交付金の動向に注目している。財政力の差があっても教育の機会均等、教育水準の維持向上が損なわれてはならない。国が教育予算を確保し、教育制度を保障する中で、基礎自治体が地域に根ざした地域の特色ある教育の推進が求められる。

まだまだ市民要望の強い市道の改良

藤原信宏

ニーズを把握し墓地団地の整備を

問い 墓地の需要は多いが、個人で求めるのは容易でない。市営墓地の地域ごとの適正数量等、整備の必要性をどう認識し、いかなる整備計画を考えているか。

市民部長 墓地の需要は一定程度あるものと思っている。現在、市営墓地の整備計画は定めていないが、住宅団地整備等で需要が見込め、適当な土地があれば協議し検討したい。

問い 三刀屋町の給下・古城地区は終の住みかを求めて転入された世帯が多い土地柄で設置要望も多い。地区内に適正規模の墓地団地整備を求めるがどうか。

市民部長 低価格で地域の同意が得られる適地があれば、需要予測を踏まえた上で検討することは可能である。

問い 家庭環境の変化や少子高齢化の進行を受けて墓地のあり方も変わってきている。低価格で納骨後の手間も要らない永代供養墓、とりわけ墓地内に納骨堂を共有する合葬式墓地の検討はどうか。

市民部長 受益者に負担が少ない墓地整備が必要で、今後検討していきたい。

公募後、すぐに完売となった市営下熊谷西墓地

堀江治之

斐伊川の治水対策は

問い 洪水時の斐伊川河川断面、堤防強度等治水対策の現状は。

建設部長 国土交通省では、斐伊川河川整備懇談会が設置され「斐伊川水系河川整備計画」案が策定され、県及び関係市町へ協議、意見照会がされている。

整備計画案では、流下断面が不足する区間は存在せず、堤防も緊急性の高い重点水防箇所も存在しないとされている。

問い 斐伊川水系河川整備計画案に記載されていないデータがあり、国土交通省へ雲南市として、堤防の補強等要請する考えはないか。

市長 整備計画策定に当り、私も委員として出かけているが堤防の補強の必要性等については、申し上げていない。今後雲南市の考えを固め、逐次意見を述べていきたい。

問い 来年7月25日よりテレビのデジタル化にあたり、デジアナ（デジタルを旧式のアナログに変換）が検討されているが、市民への周知は。

政策企画部長 3月に一度チラシ配布をしているが、再度早い機会に周知を図りたい。

平成18年の豪雨災害で増水した斐伊川

周藤正志

学校給食の業務委託は地元業者にすべきだ

問い 市の臨時、嘱託職員の待遇改善は図られているか。

総務部長 行っているが、今後とも可能な限り改善に努める。

問い 下請け等にしわ寄せがいかないように低価格入札を防いでいるか。

総務部長 低価格入札抑制につながる要領を定め対応している。

問い 質の高い公共サービスを提供し、それに従事する人の労働環境を整備するため、公共サービス基本条例及び公契約条例の制定に向け取り組むべきだ。

副市長 趣旨は理解しているが、まず国において法令整備等すべきと考える。

問い 学校給食の業務委託は、安心安全で質を確保し、かつ地産地消と食育を推進するためにも地元業者で行うべきだ。

教育長 業者の選定に当たっては、しっかり検討する。

問い 初動が遅れないよう口蹄疫対策のマニュアルや体制ができているか。

産業振興部長 対策本部を設け具体的な対策をとっていく。

問い バイオマス利活用の今後の取り組みはどうか。

産業振興部長 事業化に向け取り組む。

市民の目線に立ったサービスが求められています

吉井　傅

後期総合計画策定の考えは

問い　後期計画の視点と基本施策は。

市長　前期計画（H19～22年）を継続していく。H26年後期計画最終年度に計画達成の水準を上げていく事が重要である。また、雲南市の魅力づくりのために新たな社会基盤整備を推進したい。

問い　各町への投資経費（普通建設費）については、約6倍の差がある。均衡ある発展と基本計画とをどのように考えるのか。

市長　インフラ整備率の平準化を目指すものであり、合併前からの継続事業の早期完了も併せ進める。

問い　日本の農業は壊滅的状態だ。市として基本的農業政策を打ち出すべきだ。

市長　重要な課題と受け止めていく。基本計画の中で農業振興を進めていく。具体的施策は目標値を設定し推進する。

問い　本市における口蹄疫対策は。

産業振興部長　家畜の健康調査や消毒の徹底を行い、予防対策として消石灰の配布をした。

問い　市民バス運行をデマンド型にすべきでは。

政策企画部長　市民のニーズに応えるべく検討していく。

完成間近の雲南市カントリーエレベーター

西村雄一郎

自主組織役員に政治的活動の制限はあるか

問い　地域自主組織の役員に政治的活動の制限はあるか。

政策企画部長　地域自主組織の長等役員、交流センター長、主事が、政治的活動、宗教的活動に、個人として関わることは何ら問題はない。報酬を得ている地域マネージャー、交流センター長、交流センター主事などは、地域自主組織あるいはその雇用協議会の雇用であり、公務員ではない。従って公務員の地位利用にはあたらない。

問い　ケーブルテレビでBS・CSデジタル放送を視聴するために、テレビ1台に付き毎月300円～600円追加納付する必要がある。負担を軽減できないか。

政策企画部長　視聴機器をリースしているため、当分負担の軽減は困難である。リース終了後に検討したい。

問い　自治会境の通学路等防犯灯が必要なところがある。

教育部長　保護者から申請を受け、両自治会で負担できないというところであれば、教育委員会でも対応を考えていきたい。

最優先である通学路の防犯灯。公の負担はどこまで。

安井　誉

保育所の充実を図られたい

問い　昨今の社会情勢の中、保育所への入所希望者が増加傾向にある。幼保一元化により保育所の充実を図る考えは。

健康福祉部長　幼稚園における預り保育を平成23年度から本格実施することを検討している。

幼保一元化については検討中である。

問い　保育料の軽減を図られたい。

健康福祉部長　近隣自治体の状況等を考慮し検討を進める。

問い　奥出雲薔薇園構想のバラ植栽予定地が放置され荒廃しているが、どのような思いか伺う。

市長　市の観光振興の拠点として取り組んできたが、経済不況による契約変更は残念である。

問い　荒廃地の今後の利用方針は。

市長　何とかこれを再生し、交流人口拡大の拠点として生かしていきたい。

問い　選挙投票所の見直しによる削減は、投票率の低下につながる。見直しは最低限にとどめるべきと考えるが。

総務部長　立会人の選任、事務に従事する者の確保に課題が生じている。期日前投票制度の一層の周知を図る。

植栽計画が変更されたバラ園

加藤欽也

音声告知放送 設置事業について

問い　加茂町における音声告知放送設置事業において、標準工事外の施工により住民に行政不信、不満が募っているが。

市長　行政による説明不足、あいまいな対応が原因だと思う。深くおわび申し上げるとともに混乱がいち早く解消するよう努力していく。

問い　正しく設置されているか職員立ち会いの上、調査すべきと思うが。

政策企画部長　時間はかかるが再度業者の責任において今後実施していく。

問い　高齢者世帯、生活保護世帯に何らかの配慮は。

市長　事態の推移の中で必要があれば対応していく。

問い　防犯灯設置事業に４１６件１８４団体からの申請をどう受けとめるか。

市長　予想以上に出たと思う。

問い　１００件を超えた要望に今後どう対処するのか。

総務部長　設置基準に沿って優先順位を決めて進めていく。

問い　今回設置出来ない所への対応は。

総務部長　特定財源等の確保状況を見ながら複数年で対応検討していきたい。

体制・内容ともに統一される告知放送。
情報施策の更なる充実を。

自主組織による地域活性化を

高橋雅彦

問い 4月1日発足した地域自主組織への対応は、市役所内部で十分に検討・整理されていないではないか。

政策企画部長 整理はしたが、地域自主組織の長宛てを交流センター長に通知するなど課題もあり、部長会を通じ職員へ周知していく。

問い 地域活性化には自主組織によるコミュニティービジネス育成も必要だ。

政策企画部長 隠れた地域のビジネスチャンス情報を収集し、産業振興部と連携して支援をしたい。

産業振興部長 中山間地域直接支払い制度や農商工連携促進モデル事業など活用した支援をしたい。

問い 自治会未加入者問題は地域自主組織にとっても大きな問題だ。

総務部長 自治会加入率93・1%、若者住宅団地で未組織化が6ヵ所ある。その理由は異動が激しいという点がある。

市長 地域自主組織の活動が活発に展開される環境づくりをすることが大切だ。自分の家庭も参加してみようと思うように、直接的・間接的にいろいろな手法を凝らしながら努力してまいりたい。

市内各地で地域自主組織による新たなまちづくりがスタート

上代タノ先生の顕彰の取り組みを

光谷由紀子

問い 8ヵ月で鳩山政権は交代となった。沖縄普天間基地の移転問題、政治とカネの問題など公約を踏みにじった結果でもある。国政の動向の所見は。

市長 衆議院選挙のマニュフェストが履行されなかったことで国民の信頼を失った。

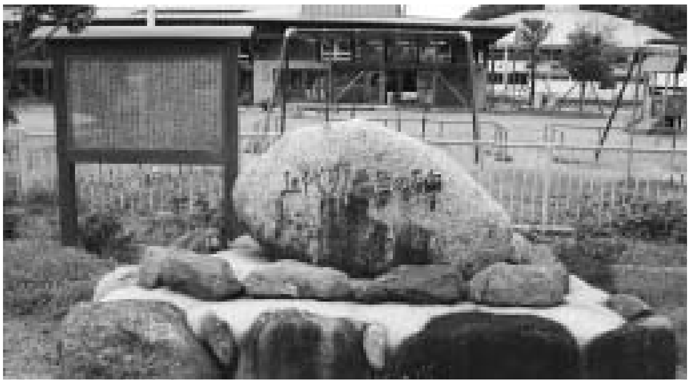
問い 市長が基本とする政治姿勢は何か。

市長 一番には市民から信頼される行政運営を行うことだ。

問い 上代タノ先生の顕彰について再々質問を行ってきた。封建的な時代に女子教育の推進、世界平和七人委員会のメンバーとしての活動など後世に伝えるべきだ。大東町の女性の集いでは顕彰事業に取り組まれている。今年度より生誕地の春殖地区で取り組みが始められている。市としての考えを問う。

市長 たぐいまれな教育家でぜひ後世に語り伝えられることを願っている。

教育長 毎年開催している教育フェスティバルが来年20周年となる。上代タノ先生の業績をたたえ生誕の地にふさわしい情報発信を来年度具体的に取り組みたい。



「大東町の女性の集い」で建てられた上代タノ先生の碑

村尾晴子

ハクチョウスポット確保の考えは

問い 温泉高齢者活動促進施設に設置された尾原ダム地域づくり推進連絡協議会の現在の活動状況と将来展望は。

政策企画部長 今年の2月20日に設立総会が開催をされ、活動を開始している。平成17年3月に認定された尾原ダム地域に開かれたダム整備計画に基づき、4年間活性化研究会で検討し、県の指導を受けて奥出雲町と連携して、協議会が設立された。今後は、奥出雲町を含め地域の団体との連絡機能を生かし、流域住民を対象にした上下流交流を積極的に推進する。

問い ハクチョウの飛来する、三刀屋町伊萱地内の県道改良に合せた環境整備の考えは。

建設部長 ハクチョウを観察する駐車スペースや観察小屋等の用地確保は困難である。今後対岸を含めて環境整備できないか国並びに県と協議をしていく。

問い ハクチョウスポットを確保し雲南市の観光地にする考えは。

市長 環境整備ができて飛来しやすい状況が実現すれば、国県と協議をしていく。

シーズンには多くのハクチョウが飛来する伊萱

佐藤隆司

スポーツ振興の取り組みは

問い 総合型地域スポーツクラブの今後の取り組みは。

教育長 未結成の木次・掛合・吉田町の組織化に取り組む。

問い 世界・全国大会へ出場される選手への支援は。

教育長 大会出場補助金で西日本大会出場以上を対象に支援している。今年度より国際大会も追加した。

問い 島根三洋電機ソフトボール部は市ブランドとして誇れるほどの活躍ぶりだがその支援は。

市長 ソフトボールに限らずスポーツ振興に一層力を入れていく。

問い 3才・4才児を対象に預かり保育サービスの充実を図る考えはあるのか。

教育長 5歳児の預かり保育の試行を検証し、12月までに一定の方向性を示す。

問い 23年4月からの本格実施園は。

教育長 試行の幼稚園を中心に検討する。

問い 雲南市バージョンの幼保一元化に向け、検討委員会を立ち上げる考えはあるか。

教育長 幼保一体化に向けて教育委員会と市長部局とで議論しているが組織の立ち上げについては今後検討したい。

全国で活躍している島根三洋ソフトボール部

周藤　強

防災意識と危機管理意識の向上を

問い　自主防災組織は交流センター単位での設立が必要と考える。未組織地域への対応は。

総務部長　市内外の先進地の取り組みを参考にしながら、活動指針的なものを検討・指導していく。

問い　市内に行き止まり市道が33路線ある。その解消に向けての検討状況は。

建設部長　解消に向けて、農道の整備や林道の開設など、多面的に検討していく。

問い　行き止まり道路の解消は、建設部や産業振興部だけでなく、防災の面から、総務部を含めた全市体制で積極的な取り組みをすべきだ。

市長　行き止まり道路について、さらに精査し、全市体制で取り組む。

問い　尾原ダムに公認ボートコースが設置されるのを機に、ボート競技が地域スポーツとして定着しなければならない。見解は。

教育長　社会体育の場での対応となる。ボート協会など、関係団体と連携しながら、普及を支援していく。

市長　ボートコースを生かしたダム周辺地域の活性化に向け、市を挙げて取り組む。

各地で取り組まれている自主防災訓練

福島光浩

思いやり駐車区画の導入を

問い　優しいまちづくりの一環として、高齢者や妊産婦、またベビーカーを使用される方のために、施設入口近くに専用駐車スペースを設置してはどうか。

健康福祉部長　現行の県制度は利用しにくい面もあり、県と連携しながら市独自でも検討する。

問い　子育てを学ぶ場、乳幼児に触れる機会が減少する中、木次中では地域支援コーディネーターが中心となり中学生の育児体験が行われている。全市的に取り組む考えはないか。

教育長　非常に効果のある取り組みであり、今後、夢発見プログラムの中で展開していきたい。

問い　子育て支援に限らず、行政機関の窓口の一本化が必要と考える。また社会が複雑化し、相談体制もより高度かつ専門性が求められており、抜本的な見直しが必要ではないか。

副市長　国の所管・制度の垣根を越えて、来年度に向け教育委員会と健康福祉部の子どもに関わる部分を一つにした組織づくりを検討している。相談体制についても市役所内部で一つのかたまりをつくり、専門知識を入れながら対応したい。

全国各地で導入の進む思いやり駐車区画

永年の地方自治の発展に貢献した功績により、次の議員が表彰を受けました。

○全国市議会議長会表彰

周藤　強

○中国市議会議長会表彰

藤原政文　村尾晴子
吉井　傳　石川幸男
堀江　眞

ご意見お待ちしています

議会活動、議会広報、議会ホームページについてご意見やご感想などお気づきの点をお寄せください。
（回答が必要な場合は連絡先を明記してください）

あて先　雲南市議会事務局
電　話：（0854）40－1004
FAX：（0854）40－1009
MAIL：gikai@city.unnan.shimane.jp

議会傍聴をしてみませんか？

平成22年6月定例会は、延べ53名の傍聴がありました。
次の議会は9月3日から9月24日までの予定です。
傍聴について詳しくは、
雲南市議会事務局
電話（0854）40－1004
までお問い合わせください。

編集後記

世界中の人々を熱狂させたサッカーワールドカップ（W杯）南アフリカ大会で、日本代表がベスト16に進出したことは、多くの国民に感動と喜び、そして希望を与えてくれました。

監督と選手並びにスタッフが目標を共有し、チームの結束力の強さが、また日本の伝統である「和の力」により好結果につながったと思います。

長引く不況や少子高齢化、核家族化などの要因が重なり合い、家族や社会とのコミュニケーションができない、したくないという無縁社会が社会問題化しています。何よりも大切な「いのち」が軽んじられている私たちの国、そして社会のあり方。「和」「絆」を見つめ直し、次世代に夢と希望が持てる国になることを目指し、真剣に取り組む必要があると考えます。

皆さまに親しまれる紙面づくりをめざして頑張りますので、ご意見、ご感想をお待ちしております。

議会広報編集委員会
委員長　山﨑正幸
副委員長　西村雄一郎
委　員　周藤正志
山﨑英彦
高橋雅浩
福島　光
周藤　強

雲南市議会のホームページを開設しています。（雲南市ホームページ → 雲南市議会ホームページ）

◆発行：雲南市議会　◆編集：議会広報編集委員会　◆住所：雲南市木次町木次1012-1